

平成29年度 大田区立大森第四中学校 自己評価 報告書

○自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	学校関係者コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4: 保護者対象アンケートにおいて「お子さんは、授業をまじめに受け学習内容を身に付けている。」と回答した割合が80%以上。	3	<p>○面談において、学習カルテのデータを生徒が主体的に活用できるように指導する。</p> <p>○学習チェックシートの活用の工夫と、結果を保護者に知らせる回数を増やす努力をする。</p> <p>○学習効果測定の結果分析から学習改善プランを作成し、小学校との連携を図りながら授業改善を進める。</p> <p>○言語活動をより充実させるために、意識的・計画的に様々な活動の場面でやっていく。</p>	<p>○おおむねよい結果だと思います。</p> <p>○オリンピックも近づいています。外国語の教育と外国人の指導員を取り入れて、生の発音を聴いてもらいたいです。</p>
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。				
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	3: 保護者対象アンケートにおいて「お子さんは、授業をまじめに受け学習内容を身に付けている。」と回答した割合が70%以上。			
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	2: 保護者対象アンケートにおいて「お子さんは、授業をまじめに受け学習内容を身に付けている。」と回答した割合が60%以上。			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。				
		授業規律と教室内外の環境整備を徹底し、落ち着いた学習環境を確立する。	1: 保護者対象アンケートにおいて「お子さんは、授業をまじめに受け学習内容を身に付けている。」と回答した割合が60%未満。			
		教科指導をはじめ、全ての教育活動において、言語活動を充実させる工夫をする。(話し合い活動、ペア・ワーク、スピーチ、ディベート、ポスター・セッション、新聞づくり、NIE、等)				

豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4: 生徒対象アンケートにおいて「学校の雰囲気は明るく、きまりを守り、みんな生き生きと活動できている。」と回答した割合が92%以上。	3	○道徳の教科化に向けて、資料活用による充実を図ると共に、評価についての研修を行う。 ○小中一貫教育の会を機会として、校区の学習・生活のスタンダードを確認し、小中連携して指導にあたる。 ○問題行動・不登校問題等について行われた会議の内容は、知るべき教職員が必要な情報を確実に共有できるように努める。	○不登校問題は難しいですね。両親と共に共有できればいいですね。 ○1年生の前期は特にストレスがたまりやすいと思います。学級委員や個性の強い子が、辛い目に見えない様に見てあげてください。 ○ボランティア活動などに参加する生徒さんも多く見られますが、まだまだ全体では少ないのかと思います。 ○よく取り組んでいただいていると思います。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。				
		学校生活調査(メンタルヘルステック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	3: 生徒対象アンケートにおいて「学校の雰囲気は明るく、きまりを守り、みんな生き生きと活動できている。」と回答した割合が85%以上。			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。				
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	2: 生徒対象アンケートにおいて「学校の雰囲気は明るく、きまりを守り、みんな生き生きと活動できている。」と回答した割合が60%以上。			
		様々なボランティア活動を体験させ、「人のために役立つ」喜びを体感させる。	1: 生徒対象アンケートにおいて「学校の雰囲気は明るく、きまりを守り、みんな生き生きと活動できている。」と回答した割合が60%未満。			
	不登校生徒への対応は、スクールカウンセラーと連携し、全教員できめ細やかな対応を行う。					
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4: 保護者対象アンケートにおいて「お子さんは、体育や部活動等を通して基本的な生活習慣が身に付き、体力が向上している。」と回答した割合が80%以上。	4	○毎時の授業において5分間走の取り組みを行っている。授業以外の場での取り組みができるか検討する。 ○月間取り組みについては、アンケートにより実態を把握し、効果的な意識啓発を行っていく。 ○「食育」について、教職員が意識を高め、給食指導に限らず各教科等においても計画的に推進する。	○全国的に見ても、女子のスポーツ参加が少ないのが現状です。何か対策を考えないといけない状況だと思います。 ○体力向上についての取り組みを強化していただきたいです。
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3: 保護者対象アンケートにおいて「お子さんは、体育や部活動等を通して基本的な生活習慣が身に付き、体力が向上している。」と回答した割合が70%以上。			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	2: 保護者対象アンケートにおいて「お子さんは、体育や部活動等を通して基本的な生活習慣が身に付き、体力が向上している。」と回答した割合が60%以上。			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	1: 保護者対象アンケートにおいて「お子さんは、体育や部活動等を通して基本的な生活習慣が身に付き、体力が向上している。」と回答した割合が60%未満。			
		保健体育授業と体育的行事や部活動の充実により、体力・運動能力の向上を図る。				

教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4: 生徒対象アンケートにおいて「授業はわかりやすく、説明される内容はだいたい分かる。」と回答した割合が90%以上。	3	○授業評価のアンケート結果をたくさんいただけるように工夫し、その結果を授業に活かす。 ○校内で相互授業見学を活発に行い、主任教諭によるOJTを充実させる。 ○研究会・研修会に計画的に参加し、その成果を授業改善に活かす。 ○分かりやすい授業、興味関心を高める授業を目指し、ICT機器を活用した授業を展開する。 ○特別支援教育について、担任と校内委員会が連携し、組織的に推進する。	○出入口が2カ所になっている時は、2カ所ともアンケートを置いた方がよいと思う。 ○席順を工夫して、わからない子を前にしてくれていると思います。 ○ICT機器をより活用できると思います。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。				
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	3: 生徒対象アンケートにおいて「授業はわかりやすく、説明される内容はだいたい分かる。」と回答した割合が85%以上。			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。				
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	2: 生徒対象アンケートにおいて「授業はわかりやすく、説明される内容はだいたい分かる。」と回答した割合が60%以上。			
		生徒の学習意欲を喚起し、生徒及び保護者への説明責任を果たすことのできるように、評価方法を工夫・改善をする。	1: 生徒対象アンケートにおいて「授業はわかりやすく、説明される内容はだいたい分かる。」と回答した割合が60%未満。			
		生徒にとって魅力ある授業、達成感を味わえる授業となるように、授業の工夫・改善を行う。				
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりまします。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4: 保護者対象アンケートにおける「学校は、生徒の健全育成のために、地域(町会・青少年対策委員会等)と連携している。」の割合が90%以上。	4	○地域教育連絡協議会において、評価に必要な情報を確認し、その情報を十分に居提供して適正な評価につなげる。 ○外部指導員の招聘について、学校支援地域本部の力を積極的に活用していく。	○アンケートで地域連携が高ポイントとなったことは大変よいと思います。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3: 保護者対象アンケートにおける「学校は、生徒の健全育成のために、地域(町会・青少年対策委員会等)と連携している。」の割合が75%以上。			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	2: 保護者対象アンケートにおける「学校は、生徒の健全育成のために、地域(町会・青少年対策委員会等)と連携している。」の割合が60%以上。			
		職員自ら地域の中に入り、地域理解に努め、地域との連携を深める。(地域行事・PTA行事への積極的参加。)	1: 保護者対象アンケートにおける「学校は、生徒の健全育成のために、地域(町会・青少年対策委員会等)と連携している。」の割合が60%未満。			

生徒指導の充実	「一手間かける」意識で迅速・丁寧な対応をし、厳しさと温かさの調和のとれた生活指導を行います。	「毅然とした指導」と「カウンセリングマインドを活かした指導」の調和のとれた生活指導を行う。	4: 保護者対象アンケートにおける「四中生の生活態度(登下校の様子を含む)は、良好である。」の割合が85%以上。	4	○各教員が自信を持って生活指導を行えるよう、校内研修で実践的な内容を取り上げる。	○おおむね良い結果だと思いますが、より強化するよう、よろしく願います。
		全教職員が同一步調で指導にあたり、学級指導・学年指導・全校指導を充実させる。	3: 保護者対象アンケートにおける「四中生の生活態度(登下校の様子を含む)は、良好である。」の割合が70%以上。			
		行事や生徒会活動・学級活動・集会等の指導を通し、リーダーシップとフォロアーシップを育てる。	2: 保護者対象アンケートにおける「四中生の生活態度(登下校の様子を含む)は、良好である。」の割合が60%以上。			
		教職員一人一人が、生徒と共に活動し(清掃・部活動等)、生徒の動きを見届け、確かな指導を積み重ねる。	1: 保護者対象アンケートにおける「四中生の生活態度(登下校の様子を含む)は、良好である。」の割合が60%未満。			